

菩提流支三藏所造『麒麟聖財立宗論』解題・翻刻

——中世浄土宗における仮託文献について——

鈴木 英之

【解題】

『麒麟聖財立宗論』（全四卷）は、印度の高僧・菩提流支（？～五二七）の作とされる教学書である。勿論仮託であり、成立年・編者ともに判然としないが、諸書の引用状況からして南北朝期頃には成立していたものと推測される。注目すべきは、中世浄土宗の根本教学となる教相判釈説が、本書によって権威づけられていたことである。

浄土宗第七祖・了誉聖阇（一三三一～一四二〇）は、当時独立した一宗とは認められていなかった浄土宗の地位向上のため、先徳に名を借りた様々な仮託文献を使用することで浄土教学を構成・権威づけていった。聖阇教学の根本となるのが「二藏二教判」という教相判釈説である。浄土教を中心として他宗を位置付けるための重要な教説だが、それが初めて説かれた著作として永徳二年（一三八二）成立の『浄土略名目図』がある。¹ 『浄土略名目図』は、建暦元年に行われた法然の法語を、門弟聖覚が筆記し、それを聖阇が図示したとの体裁をとる教学書である。法然の法語は、いわゆる「建暦法語」と呼ばれ、聖阇によれば、

何況建曆年中法語是聖覺法印筆受也。(中略)其上聖覺只其筆受者也。正是皇祖御法語也。高祖亦非私言。既云三藏云。即彼聖財論中其旨分明也。不レ及三疑難一者也。云云。

と、法然(高祖)が『麒麟聖財立宗論』にもとづいて述べたものだという。

浄土宗第八祖・西譽聖聰は、師である聖岡が「建曆法語」と『麒麟聖財立宗論』によつて教相判釈説をつくりあげたことについて、次のように述べている。

然先師(了普上人)見建曆元年八月上旬名目、偏就彼作三藏名目略頌并頌義、盛興行於二藏教相。而始不見麒麟聖財論之時、建曆名目宗祖三藏云書給、未見二本文。後得聖財論印治決定給、弥以三藏名目代代御相伝光明大師定判也落泪給也。(3)

先師・聖岡は、法然の「建曆法語」によつて数々の教学書を作成し、二藏二教判を興行したが、初めは『麒麟聖財立宗論』を所持しておらず、「建曆法語」に「宗祖三藏云」とある記述の原拠を見ることができなかった。しかし、その後『麒麟聖財立宗論』を入手・披覧したことで菩提流支からつづく正統性を確信し、二藏二教判が、印度から代々相伝されてきた教説に間違いないと「落泪」したという。つまり、聖岡の二藏二教判は、菩提流支の『麒麟聖財立宗論』から、法然の「建曆法語」、そして聖岡に至るまで継承されてきた、三国伝来の正統的な教説だと宣言しているのである。聖岡教学は、中世以降、浄土宗の中心的な教学として長らく重用されるが、その根本は、じつは仮託文献によつて權威づけられているのである。

ただし、『麒麟聖財立宗論』は、早い時期から偽撰ではないかと疑われていた。当然「建曆法語」の真偽も問われたため、聖岡は、『浄土略名目図』で、その正統性を主張し、疑難に及んではならないと述べてい

る。また聖聡の時代には「有門弟等云、二藏名目、公私名目也」と、二藏二教二頓判は、聖罔が勝手に作つたものだとの批判を加える門弟がいるなど、『麒麟聖財立宗論』は、聖罔の教学形成当初から偽書との疑いが濃厚な、グレーゾーンに含まれる書物だったことがわかる。

それにもかかわらず、聖罔が『麒麟聖財立宗論』を用いて自身の教学の拠り所とした理由は、当時の浄土宗が置かれた特殊な立場にあると考えられる。聖罔が活躍した南北朝から室町時代にかけて、浄土宗は、いまだ独立した一宗とは認められず、低い地位に置かれていた。それは、法然の没後、多数の流派が生まれて教義的にまとまりを欠いたこと、またなにより、三國に渡る確固たる伝灯の系譜を持たないため、宗の正統性が認められなかったことが大きな原因としてあった。

通常、どの仏教宗派でも、それぞれの派の正統性を証明するものとして、日本から中国、印度へと遡る師資相承の系譜が重視される。しかし、浄土宗にはもともと直接的な師承関係が存在しない。なぜなら宗祖・法然は、浄土教学を独学で会得し、叡山黒谷の経蔵で善導の『観無量寿経疏』にふれて本願念仏に帰入したためである。正統を証明する嗣法関係の欠如は、教学の優位性・正統性を述べる際にも問題となる。そこで聖罔は、法然や善導、そして菩提流支などの名を借りた書物を用いることで、自宗の教学に正統性を与え、強引に権威づけをはかったものと考えられるのである。これは中世寺社の縁起や、神道書にも通じる、極めて中世的なテキスト作成のあり方といえるだろう。

近世に入ると、『麒麟聖財立宗論』は、文献主義の昂まりから本文批判を加えられ、徐々に権威を失っていく。翻刻に用いた家蔵本には、浄土宗名越派の檀王法林寺四世・東暉（一六二三・八二）の跋文が附され

ているが、そこからは本書が偽書としてあまり用いられなくなっていた状況が見て取れる。すなわち、

今此論者浄家之命脈華文深理不_レ可_二得_一而称_一矣。爾有_レ人_不窮_二素意_一妄_レ曰_二偽論_一世_不賞_一。故吾師袋中作_二私_レ積_一粗_レ註_一明_レ之_一。雖_レ然略_レ釈_一而新_レ学_不能_二通_一達_一。至若_レ近_レ來_レ所_レ版_レ行_一本_末共_レ甚_レ衍_レ奧_一某_レ悲_一此_レ書_レ廢_一。或時_二聚_一初_レ機_一弟子_二暫_レ講_一之_一。隨_二己_レ分_一改_レ以_レ重_レ鑿_一梓_レ志_一在_二弘_レ通_一耳。

と、『麒麟聖財立宗論』は、浄土宗の命脈として深い教えを含んでいるにも関わらず、素意を窮めることなく、人々は妄りに「偽論」として批判する。だから師・袋中⁶は自ら註釈書をあらわして深理を明らかにしたが、簡略な註釈であるため初学者は通達できない、そこでこの書が廃れないように、講義を行い、さらに版行したのだという。

本格的な本文批判は、東暉よりすこし時代がくだった江戸中期頃から行われ、成蒼大玄（一六八〇・一七五六）『浄土頌義探玄鈔』、簡易撰『浄土扶宗録』（一七一五）では、偽撰である根拠が詳細に論じられている。ここでの評価は後世に受け継がれ、『麒麟聖財立宗論』は、その重要度に反して、現在ではほとんど忘れ去られるに至っている。

最後に、簡単に本書の構成について述べたい。まず一巻から三巻までは、教相判釈がなされる。釈迦の一代仏教を、根本法輪、枝末法輪、摂末帰本法輪の三法輪と、声聞蔵・菩薩蔵の二蔵に分け、次に菩薩蔵を漸教・頓教に二教に分け、さらに漸教を初分と後分、頓教を性頓と相頓に分類し、このうちの相頓教が浄土教とされる。これらは吉蔵の二蔵三法輪に、天台の五時八教や菩薩の行位論、華嚴の五教判などの教理を加える形で構成されたもので、聖岡の教相判釈と同様の説が説かれることに特色がある。のこる第四巻では、

浄土宗の宗旨が示され、身土之相、往生行相、念仏現益、臨終瑞相、胎家二生、得益分齊の六義が論じられる。なお、四巻に『選択本願念仏集』によっている箇所があることから、『浄土扶宗録』では、『麒麟聖財立宗論』は、浄土末流の手になるものではないかと推測されている。または聖岡の自作ではないかとする説もあるが、今後の検討課題としたい。

『麒麟聖財立宗論』は、ある宗派が、確固たる一宗として認められるために、いかに権威を欲し、それを獲得していったのか、また仮託文献が果たしてきた役割を知るうえで、重要な示唆を含んだ資料と考えられる。小稿は、家蔵本にしたがい『麒麟聖財立宗論』を翻刻し、研究の便とするものである（同版の画像データが、近代デジタルライブラリーのウェブページ上で公開されている。併せて参照されたい）。

(1) 『麒麟聖財立宗論』の概要については、望月信亨「岡師の学風と其の由漸」「聖岡上人の事績及び其の教義」（同『浄土教之研究』、金尾文淵堂、一九二二・八）、服部英淳「了誉聖岡の教学体系に関する述作解説」（『浄土宗全書』一一、山喜房、一九七二・一）など参照。

(2) 聖岡『二蔵義見聞』巻四（『浄土宗全書』一一、四二八頁下）。

(3) 聖聡『浄土二蔵鋼維義』（『浄土宗全書』一一、五七四頁上下）。

(4) 聖岡『二蔵義見聞』巻四（『浄土宗全書』一一、四二八頁下）。

(5) 聖聡『浄土二蔵鋼維義』（『浄土宗全書』一一、五七四頁上下）。

(6) 東暉の師・袋中良定（一五五二〜一六三九）は、『琉球神道記』などの著作で知られる浄土宗名越派の

学僧で『麒麟聖財論私釈』をあらわした。袋中は、ほかにも聖岡が重視した仮託書の註釈（『説法明眼論端書』）をあらわすなど、浄土宗における仮託文献の受容と継承を考えるうえでも興味深い。

【書誌】

- ・全四卷（合一冊）。筆者家蔵本。
- ・延宝四年（一六七六）東暉校。明治十八年（一八八五）版。
- ・明治十八年七月官許。同九月刻成。尾張 其中堂蔵。
- ・縦二十二・八cm×横十五・四cm。袋とじ。全二十一丁。

【凡例】

- 一、翻字は、原則として通行の字体を用いた。
- 一、行は追いこみとし、字下げ・改行は、原則として底本の体裁にしたがった。
- 一、ふりがな・送りがな・訓点・傍注は、原本のとおり附した。また句点を私に附した。
- 一、シテ、トモ、コト、トキなど、漢字・仮名の合字はすべてひらいた。
- 一、不読箇所は■でしめした。
- 一、割り注や細字は（ ）で括った。

菩提流支
三藏所造

麒麟聖財立宗論

合冊
一卷
全

論主略伝

菩提流支三藏者如来滅後一千四百余年出世北天竺人也。魏言道希遍通三藏。妙入總持志在弘法。善誘克勤明鑑莫疲。德流視聽化溢遐邇矣。師以魏永平二年來遊東夏。宣武帝勅処洛下永寧大寺。四事將給七百梵僧。勅以流支為訳経之元匠。凡所訳出經論二十九部一百二十七卷無量壽論乃其。所訳之隨一也。訳天親論始擬衆生利益欣求淨土之先達也。

附言

謹私拜閱此立宗論。從梵於漢弘經大法師菩提流支三藏所造也。就中淨土命脈伝法高僧也。然本朝吾宗先賢哲真偽可否云。既天正年間袋中良定上人此論附私釈二卷言真論。亦延宝年中洛陽三條橋下法林寺東暉上人悲歎本論与私釈磨滅上再治之。因由記論末矣。其后天明年間洛陽大火災燒亡。可惜矣。依之方今鑱壽花木再三之也。而康永文明頃末学之徒引記此論。云真又云偽。故私案今論初卷二卷三卷者弁明三法輪二藏中述漸頓兩教權宗半滿聖道因果入證深理至第四卷委明往生淨土。其門中亦復分六段一尺一定重々樂邦得入義理也。豈是淨州之命脈哉。先言當論之真偽者請后見明哲智解爾云。

維時明治十八年八月

淨土宗 吉水末学無慚愧小僧覺道頓首仰願

今上皇帝 福命長固 皇后悲心 聖化無窮

釈典四恩 五善五心 各国通宗 百機帰極』

麒麟聖財立宗論卷第一

後魏三藏大法師菩提流支造

歸^{上レ}命 毘盧^ト報化^ノ正覺^ト尊^ト二藏^ト三法輪^ト漸頓^ノ諸法藏^ト體相用^ノ三寶^ト文殊普賢觀音大薩埵^ト一切聖僧^ト。西天六宗各攝^ス一代^ヲ。立教多少各隨^ニ自見^ニ。譬^ハ如下^有人造^{スル}屋舍^ヲ一間^ニ間^ニ乃至^ニ百間^ニ或隨^ニ位階^ニ或依^中己分^上。立教多少亦復^レ如是。一教^ニ二教^ノ乃至^ニ多教^ノ各得^テ道理^ヲ深稱^ニ聖意^ニ。以^ニ己管窺^ヲ更勿^レ非^レ他^ヲ。老子云知^レ命者不^レ怨^レ天。知^レ己者不^レ尤^レ人。古賢聖言^最為^ニ天真^ニ矣。然宗有^レ惣有^レ別。惣攝^ニ一代^ヲ別限^ニ一經^ヲ。今此淨土宗約^ニ三法輪^ニ立^テ二藏^ニ教^ヲ惣攝^ス一代^ヲ。明^ニ言^ノ之所表^ス也。

第一先約^ニ三法輪^ニ者一者根本法輪則毘盧遮那如來之真傳一音演說無^ニ無^ニ三本妙一乘田滿修多羅文殊結集大乘華嚴是也。』二者枝末法輪則始自阿含^ニ終至^ニ空乘^ニ。釈迦文仏所說大小權実漸頓化制戒定惠經律等之一切聖教是也。然此枝末法輪分為^ニ三部^ト。則小雜空是也。一言^レ小者阿含等諸部小乘經律論等是也。一言^レ雜者或小或大或權或実或漸或頓或化或制。文言間雜說相非^レ一。如^レ是等諸教名為^ニ雜乘^ト也。三言^ニ空乘^ト者純說^ニ心性畢

竟空^ニ諸部^ノ般若^ノ教^ニ是^レ也。三者攝末[」]。歸本^ノ法輪^者正^ニ直捨^ニ末教^ノ方便^ニ但說^ニ本教^ノ無^ニ上道^ノ一開^ニ末教^ノ方便^ノ門^ニ示^ニ本教^ノ真^ニ實^ノ相[」]。唯^ニ此^ノ本教^ノ一^ノ大^ノ事^ノ因緣^ヲ故^ニ出^ニ現^ニ於^ニ世[」]。唯^ニ此^ノ本教^ノ一^ノ事^ノ實[」]。余^ノ小^ノ雜^ノ二^ノ乘^ノ則^レ非^レ真[」]。十方^ノ淨^ノ土^ノ中^ノ唯^ニ有^ニ本教^ノ一^ノ乘^ノ法^ノ無^レ二^ノ亦^レ無^レ三^ノ除^ニ二^ノ末教^ノ方便^ノ說[」]。矧^ニ門^ノ外^ノ三^ノ車^ノ末教^ノ方便^ノ表[」]也。円教^ノ大^ノ白^ノ牛^ノ車^ノ純^ノ円^ノ一^ノ乘^ノ本教^ノ無^レ作[」]天真^ノ醍醐^ノ法^ノ表[」]也。然^ニ醍醐^ノ有^ニ二^ノ種[」]。即^ニ作^ニ無^レ作[」]是^レ也。故^ニ以^ニ法^ノ華^ノ為^ニ攝^ニ末[」]。歸本^ノ法輪[」]也。若^レ約^ニ積^ニ迦^ノ一^ノ代^ノ論[」]權^ニ實^ノ一般^ノ若^レ法^ノ華^ノ性^ノ相^ノ兩^ノ門^ノ陰^ノ陽^ノ二^ノ道[」]也。俱^ニ以^ニ為^ニ實^ノ教^ノ明^ニ其^ノ一^ノ代^ノ說[」]時[」]諸部^ノ小乘^ノ十^ノ二^ノ年^ノ雜^ノ乘^ノ一^ノ年^ノ空^ノ乘^ノ二^ノ十^ノ九^ノ年^ノ法^ノ華^ノ八^ノ箇^ノ年[」]也。大^ノ乘^ノ無^レ時[」]也。無^ニ言^ノ說[」]故^ニ非^レ積^ニ迦^ノ教[」]。故^ニ弗^レ攝^ニ二^ノ代^ノ說^ノ教[」]也。

第二^ノ次^ノ立^ニ三^ノ藏^ノ教[」]者[」]一^ノ者^ノ聲^ノ聞^ノ藏[」]二^ノ者^ノ菩^ノ薩^ノ像[」]。一^ノ聲^ノ聞^ノ藏[」]者[」]一^ノ切^ノ衆^ノ生^ノ有^ニ六^ノ種^ノ姓[」]。具^ニ此^ノ種^ノ姓[」]者[」]利^ノ根^ノ者[」]則^レ成^ニ緣^ノ覺^ノ種^ノ姓[」]修^ニ三^ノ十二^ノ因^ノ緣[」]出[」]於^ニ無^レ仏^ノ世[」]見^ニ落^ニ葉^ノ紅^ノ葉[」]證^ニ於^ニ一^ノ果[」]。其^ノ鈍^ノ根^ノ者[」]聞^ニ四^ノ諦^ノ生^ノ滅^ノ法[」]則^レ成^ニ聲^ノ聞^ノ種^ノ姓[」]行^ニ生^ノ滅^ノ四^ノ諦^ノ法[」]證^ニ千^ノ須^ノ陀^ノ洹^ノ等[」]四^ノ果[」]。或^レ有^レ聞^ニ下^ノ化^ノ仏^ノ告^ニ善^ノ來^ノ之^ノ小^ノ語[」]上^ノ證^ニ無^レ生^ノ一^ノ人[」]。或^レ有^レ一^ノ生^ノ成^ニ阿^ノ羅^ノ漢^ノ人[」]。或^レ有^レ三^ノ生^ノ成^ニ阿^ノ羅^ノ漢^ノ人[」]。或^レ有^レ下^ノ六十^ノ劫^ノ成^ニ阿^ノ羅^ノ漢^ノ人[」]上[」]。獨^レ覺^ノ或^レ有^レ四^ノ生^ノ成^レ果^ノ人[」]。或^レ有^レ百^ノ劫^ノ成^レ果^ノ人[」]一^ノ矣。小^ノ乘^ノ菩^ノ薩^ノ運^ニ三^ノ祇^ノ百^ノ劫[」]之^ノ間[」]三^ノ祇^ノ外^ノ凡^ノ位^ノ百^ノ劫[」]內^ノ凡^ノ位[」]也。此^ノ教^ノ菩^ノ薩^ノ行[」]六^ノ度[」]修^ニ三^ノ万^ノ行[」]期^ニ三^ノ濁^ノ利^ノ心^ノ化^ノ成^ノ道[」]是^レ名[」]發^ニ心^ノ修^ノ行^ノ成^ノ道[」]。是^レ名[」]滿^ニ數^ノ八^ノ相^ノ成^ノ道[」]。此^レ是^レ始^ニ終^ノ底^ノ同[」]小^ノ乘^ノ之^ノ成^ノ道[」]也。以^ニ茅^ノ草^ノ則^レ為^ニ事^ノ座[」]以^ニ十^ノ葉^ノ已^ノ上^ノ蓮^ノ華[」]則^レ為^ニ法^ノ塵^ノ比^ノ丘^ノ像[」]也。若^レ對^ニ大^ノ根^ノ暫^ノ現[」]上^ノ相[」]。若^レ約^ニ自^ノ體^ノ常^ノ形^ノ劣^ノ化[」]夫^レ化^ノ仏^ノ身^ノ具^ニ三^ノ十二^ノ相[」]但是^レ且[」]為^レ示^ニ同^ノ轉^ノ輪^ノ聖^ノ王[」]。此^レ必^レ非^レ二^ノ仏^ノ相[」]。是^レ名[」]示^ニ同^ノ三^ノ十二^ノ相[」]也。

麒麟聖財立宗論卷第一

(※半丁白紙)

麒麟聖財立宗論卷第二

後魏三藏大法師菩提流支造

第二菩薩藏者亦有二種。一者漸教二者頓教也。一漸教亦有二分。謂初分後分是也。其初分者立誘引小乘之十地。明三乘共行相斷惑之分齋也。其中乾慧地外凡。第二地內凡。第三第四兩地斷見惑。三隔家家之位也。第五地斷欲界思惑六品。二隔家家之位也。第六地斷欲界九品之思惑。一隔不還果之位也。第七地斷上二界八九七十二品之思惑。一間阿羅漢之位也。第八地斷見思兩惑。暫侵習氣之位也。第九地已除習氣之位也。第十地更斷塵沙之位也。又聲聞有十地。始自受三埽地。至第二第三地外凡位四五六地內凡位也。第七地預流果。第八地家家位。第九地隣近位。第十地阿羅漢果也矣。又支。『自有十地。如經說。此教菩薩行六度修三万行之間。逢七大僧祇百万劫之位也。有三賢。有四善根。其中有二位。三賢外凡位也。四善根內凡位也。當教教主或現比丘像。以第草則為事座。以十葉已上蓮華則為法座。或現螺髮尊特像。以施草則為事座。以百葉已上蓮華則為法座。說三乘法。此是勝化之隨一也。一後分者或現螺髮像。以天衣則為事座。以千葉已上蓮華則為法座。或現華冠實報金身。以千葉已上蓮華則為事座。以性空等則為法座。說六十一地分齋菩薩。一位中斷惑不斷惑深淺分齋。以瓔珞細軟則為事衣。以柔和忍辱則為法衣。以七宝所成宮室則為事室。以大慈大悲則為法室。維摩大士室內。土數三万二千高八万四千由旬。是則性無智慧法室也。室內華藏界毘盧遮那所居也。三万二千者三十二菩薩各具千波羅蜜。合三万二千也。八万四千由旬者八万隨情法門也。此漸教後分菩薩歷二十二僧祇百千万劫。万劫外凡。三祇內凡也矣。今六十一地者一者信相地（十信凡位也）二者發趣位（十住位也。或

名習種性。三者長養位。十行位也。或名性種性。四者金剛位。十回向位也。或名道種性。謂初十信。雖凡位。非如余教。凡夫也。三賢伏忍。名大乘比丘也。五者歡喜等十地。是名十聖位也。就初中初二三地。名為信忍。亦名斷惑真聲聞。行無作四諦。四諦實相也。四五六七地名斷無明大乘真緣覺。行無作十二因緣。十二因緣則實相也。然斷惑有厚薄。流水斷燒薪斷是也。流水斷斷已造業。不造業。是必有後起。故燒薪斷永無後起。故已前雖斷惡貪。猶有善貪。故名有功用。八九地名為無功用。證得無生。忍故善惡一貪無故名無作意。故正使如盡習氣如亡。故第十地於無量世界。化成等覺。或現具足滿數。八相示同。三十二相。或現略數。八相。具實相。三十二相。智者心知。六者仏果有十地。濁刹忍土。教主雖有十地名。未究竟也。但曰五根。無十根。故但云三身。無十身。故但云四智。無十智。故但云五忍。無十忍。故但云三明。無十明。故但云六通。無十通。故但云八解脫。無十解脫。故但云四弁。無十弁。故但云八音。無十音。故但云四無畏。無十無畏。故但云十八不共法。無十不共法。故十是圓滿無盡義也。但云六波羅蜜。無十波羅蜜。故但說恒河沙。不說極微塵數。故說有正像末三時。故說有過現未來三世。故不能轉善惡定業。故此中設雖有報仏之說。但是暫時示現之報也。非實成之報。權之報也。皆同化身之說。但以化仏。即為地前。仏。一仏。十地。地前也。更非菩薩位。地前也。猶論正使習氣。故然聲聞藏教。教主居濁刹。大乘漸教初分。教主居世界種分。淨刹。後分。教主居世界海清淨土。頓教。教主居尽性相。華藏界。然大乘漸教後分。教主居微細習氣。故以為地上。仏也矣。又聲聞藏。不談二種。真如二種。法性。漸教初分。談隨緣不變。二真如。學本。法性。始。法性。二種。亦於仏果。有煩惱。性。有菩提性。於凡夫。有煩惱。性。有菩提性。然仏有性感。無修惑。有性感。故有下化衆生。大悲。無修惑。

故果^ニ上^ニ求^テ菩提願^ヲ約^シ無^ニ別^ノ九界衆生^一。凡夫有^ニ性善^一故無^ニ別^ノ仏界^一。發^ニ上^ニ求^テ菩提願^ヲ無^ニ修善^一故沈^ニ淪^{スル}九界^一也。故諸仏雖^レ成^ニ菩提^ヲ不^レ斷^ニ性惑^一。若斷^ニ性惑^一言^ニ別^ノ九界^一。何知^ニ凡夫苦^一發^ニ化^ニ他^ノ大悲^一。性惑^ニ一性^ノ故知^ニ衆生苦^一果^ニ利他願^一也。露凝^テ作^レ霜水固^ニ成^ル氷^ト。濕性^ニ一性^ノ故解^ニ爲^ニ一^ノ性水^一。性惑^ニ一性^ノ故仏界有情界和合^ス。凡夫雖^レ無^ニ修善^一有^ニ性善^一故上^ニ同^ニ仏界^一。問云若於^ニ仏界^一言^レ有^ニ性惑^一者何名^ニ爲^ニ斷惑證理^一。若言^ニ斷惑證理^一者那^ニ云^レ有^ニ性惑^一。性惑^ニ真也^一。修惑^ニ仮也^一。若不^レ斷^ニ真者^一更名^ニ不^レ爲^ニ斷惑^一。若亦凡夫言^レ有^ニ性善^一者不^レ敢^テ名^ニ凡夫^一。有^ニ真善^一故。答云豈^ニ不^レ言^レ耶。爲^ニ上^ニ求^テ菩提^ヲ爲^ニ下^ニ化^ニ衆生^一此則從^レ權入^レ實行相也矣。』

麒麟聖財立宗論卷第二』

麒麟聖財立宗論卷第三

後魏三藏大法師菩提流支造

第二頓教者然頓有^ニ二種^一。一者性頓^ノ（亦名^ニ理頓^一也。即是^ニ円宗^一也）二者相頓^ノ（亦名^ニ事頓^一也）一性頓者即有^ニ三門^一。一立位^ニ不立位^一是也。一立位者借^テ漸教後分^ヲ或^ハ五位或^ハ六位立^ニ三六十一位之名^一。是皆有^ニ名無實^一之仮也。譬如^レ於^ニ水上^一攪^レ像隨印^一隨亡。鳥自飛^レ空隨去^一隨空^上。一不立位者不^レ修^ニ不行^一』從來即證^ニ二種^一真如^一。一者空真如^ノ（亦名^ニ心性真如^一也）二者色真如^ノ（亦名^ニ心相真如^一也）性則性^ノ真如^一。相則相^ノ真如^一。本是不^レ來。今更不^レ去。濁利清淨利無^ニ一亦無別^一。若論^ニ教主^一則毘盧遮那亦受用身。具^ニ足多身^一二色空兼含更無^ニ三時^一亦無^ニ三世^一。一心性相^ノ更無^ニ別法^一。万法皆空^ノ諸法実相^ノ。心無^ニ二心^一空無^ニ二空^一。何論^ニ二性^一

那立^ン二心^ヲ矣。若約^シ二事^ハ一則現^シ二宝冠像^ヲ。放光說法。更無^ニ三言說。不^シ動^テ舌。根能說^ク性相^ヲ。不^シ震^ス音声。語滿^ス二法界^ニ。若論^セ二事座^ヲ。微塵數葉^一。一華葉周徧法界大蓮華座也。若論^セ二法座^ヲ。性相兼含^シ真空^ヲ。則為^レ座。極微塵中有^ニ刹土^一。名^ニ華藏世界^ト。毘盧遮那如來所居也。不^レ指^ニ三方^ヲ。更無^ニ三分齋^一。性頓之前^ハ。則不^レ云^セ色^ト。亦不^レ說^レ空。虛空則虛空。說法諸色^ハ。則諸名^ナ。示法。梵王書^ニ相字^ヲ。遂印^ニ多羅葉^ニ。著頌造^ニ周文^ニ。既為^ニ三聖祖^一。如來遣^シ三聖^ヲ。化^ニ震旦國^ヲ。迦葉菩薩名^ヲ。為^ニ老子^ト。光淨菩薩名^ヲ。為^ニ仲尼^ト。月光菩薩名^ヲ。為^ニ顏回^ト。普賢名^ヲ。為^ニ梵王^ト。文殊名^ヲ。為^ニ著頌^ト。白猿西^{ヨリ}來飛^ニ東峯^ニ。古仏遺風誰好知。青女不^レ降^レ霜。霜那知^ニ寒氣凝堅^ト。鷓鴣向^テ南飛。負^ニ稻穗^ニ。畏^レ霜。不^レ求^ニ正報^ヲ於^ニ心外^ニ。不^レ依^レ報^ヲ於^ニ他方^ニ。繫^ニ緣^ヲ真如^ニ。一^ニ念性相^ニ。十界皆如。法界唯心。盡虛空界即是心性。草木叢林皆是心相矣。皆約^ニ毘盧遮那所傳頓教^ニ。此約^ニ化仏^ニ而論^{セリ}頓教^ヲ。於^ニ一代所說^レ經^ニ有^レ權有^レ實有^レ漸有^レ頓。就^レ中法華是實^{ナリ}。法華是頓。問曰無量義經云^ニ四十余年未顯真實^ト。然法華已前諸經皆共為^レ權耶為^レ漸耶。答云瓔珞經有^レ漸有^レ頓。深蜜楞伽維摩有^レ權有^レ實。就^レ中般若^ハ是實教也。但般若^ハ是陽。法華是陰。般若^ハ是空。法華^ハ是色。般若^ハ是性。法華^ハ是相。般若^ハ是方法皆空。法華^ハ是諸法實相。性相未^ダ和合^セ故^ニ未顯真實^ト。風動雲躁。華飛月出。皆是^レ性空悉是實相也矣。問曰龍女始詣^ニ仏所^ニ聞^レ法大悟^ス。其時年數云何。答曰某年也。問曰龍女其名字云何。答曰其名字寶也。問曰龍女為^レ報^ニ聞法恩^ヲ獻^ニ如來^ニ珠何物乎。答曰某珠也。問曰龍女成仏之方云何。答曰日出之方也。問曰龍女成仏國号云何。答曰摩訶陀國之無垢世界也。問曰龍女為^レ轉^ニ女身^ヲ耶否耶。答曰草木轉^フ其相^ヲ。問曰龍女兄弟姊妹其數云何。答曰一三三三五六三十。問曰世無^ニ二仏國無^ニ二主^一。依^テ世尊^ノ之教化^ニ龍女成仏^セ豈非^ニ二仏並出^ノ之義^ニ耶。答曰言^レ無^ニ二仏並出^ノ之義^ニ。發心修行之成道聲聞藏^ノ之心也。大乘頓教覺悟之成仏^ハ不^レ然。十方世界有性同時成仏也。綠潭是偽^ニ藍^ニ。其色見^ル不^レ染。

椀水写^ニ屋影^一。其水甚狭^{セマクシテ}。更深焉^ニ。

麒麟聖財立宗論卷第三』

(※半丁白紙)

麒麟聖財立宗論卷第四

後魏三藏大法師菩提流支造

從^レ此已下^ニ次明^ニ往生淨土宗旨^一。此門之中^ニ有^ニ六重之義^一。第一^ニ弁^ニ身土之相^一。第二^ニ定^ニ往生行相^一。第三^ニ明^ニ念仏現益^一。第四^ニ述^ニ臨終瑞相^一。第五^ニ釈^ニ胎化二生^一。第六^ニ頭^ニ後益分齋^一。

第一^ニ弁^ニ身土之相^一者問曰^{ハタ}當彼^ハ弥陀及極樂國^ニ為^レ報^ト耶^ニ為^レ化^ト耶。答曰^ハ今彼^ハ弥陀即報身也。』極樂世界是報土也。以^レ何得^レ知^ヲ。大經曰^ハ無量壽^ハ威神光明最尊第一^ニ。諸^ハ仏^ハ光明所^レ不^レ能^レ及^ニ。是^ハ故^ニ号^ニ無量光^ハ無^レ邊^ニ光^ハ乃^ニ至^一超^レ日月^ハ光^ト。觀^ニ經^一曰^ハ光明徧照十方世界^一。小^ニ經^一曰^ハ彼^ハ仏^ハ光明無量^ニ照^ニ十方^ニ國^ニ無^レ所^ニ障^{スル}礙^一。是^ハ故^ニ号^ニ為^ト阿^ハ弥陀^ト。然^ニ彼^ハ光明者智慧之相也。故^ニ彼^ハ仏^ハ五^ニ智^ニ分^ニ為^ニ十二^ニ光^一。謂^ク無量無^レ邊無^レ礙清^ニ淨^ニ歆^ニ喜^ニ智慧^ニ不^レ斷^一七^ハ光^ハ初^ハ之^ハ仏智^ハ之^ハ相也。難^レ思^一「光」者不^レ思議^ニ智^ハ之^ハ相也。無^レ稱^一「光者不可稱智之相也。無^レ對^ニ敵^ニ王^ニ二^ニ光^ハ者^ハ大^ニ乘^ニ廣^ニ智^ハ之^ハ相也。超^レ日^ハ月^ハ一^ハ光^ハ者無^レ等無^レ倫最^ニ上^ニ勝^ニ智^ハ之^ハ相也。何^ニ況^ニ梵^ニ本^ニ諸^ニ經^ニ中^ニ悉^ニ号^ニ報^ニ身^一稱^{スル}盧^ニ遮^ニ那^ト之^ハ言^ハ報^ニ身^ハ名^ト也。亦^ハ名^ニ阿^ハ弥^ハ陀^ト。然^ニ盧^ニ遮^ニ那^ト之^ハ言^ハ此^ニ翻^ニ光^ニ明^ト。阿^ハ弥^ハ陀^ト之^ハ言^ハ此^ニ曰^ニ光^ニ明^ト。兩^ニ号^ニ梵^ニ語^ニ俱^ニ翻^ニ光^ニ明^ニ徧^ニ照^ト。既^ニ三^ニ經^ニ共^ニ号^ニ彼^ハ仏^ハ為^ニ光^ニ明^ト。故^ニ知^ニ。彼^ハ阿^ハ弥^ハ陀^ト是^ニ報^ニ身^ハ也。又^ハ大^ニ經^ニ云^ハ其^ハ仏^ハ世^ニ界^ニ名^ニ曰^ニ安^ニ樂^ト。既^ニ云^ニ安^ニ樂^ト。知^ニ。非^ニ化^ニ土^ト也。又^ハ云^ハ彼^ハ仏^ハ國^ニ土^ニ清淨安穩微妙快樂^ト。無^レ為^ニ泥^ニ洄^ト。聲聞菩薩天人咸^ニ同^ニ一^ニ類^ト。形^ニ無^ニ異^ニ狀^ト。但^ニ因^ニ順^ニ余^ニ方^ニ故^ニ有^ニ天^ニ人^ニ之^ハ名^ト。非^レ天

非_レ人_ニ。今_レ何_レ類_ニ濁利有_レ為_レ化土_ニ乎。觀經曰_ニ「_レ佛身高六十萬億那由他恒河沙由旬_一。凡_レ言_ニ「_レ化土_一者必同_ニ人天_ニ於_ニ四洲之南閻浮提_ニ出世_一。其_レ四洲者一須弥之四方也。彼_レ須弥既曰_ニ「_レ八万由旬_一。南浮_レ是_レ八海之中第八之外_一」海之島也。然_レ經曰_ニ「_レ弥陀眉間白毫如_ニ五須弥山_一。佛眼如_ニ四大海水_ニ云_ニ「_レ世界_一小也。佛身大也。応同_ニ何_レ機_ニ可_レ居_ニ何_レ土_ニ乎。故_ニ以_レ弥陀_ヲ為_レ「_レ応化_ニ失_レ道理_ニ以_レ眼目_ヲ盲_一。然_レ彼_レ弥陀非_レ報身_ニ為_レ何_レ色人_ニ乎。況_レ曰_ニ「_レ光明徧照_一。何_レ稱_ニ為_レ「_レ化土_一也。問曰_ニ「_レ彼_レ法藏比丘所_レ觀見_ニ二百一十億_ト土_ニ與_ニ觀經所說_ニ光台所現_ニ十方_ト佛土_ニ共_ニ為_レ「_レ報土_一耶。答曰_ニ「_レ二百一十億_ト土_ニ利_レ土_ニ淨穢_ニ二土_ニ。謂_レ不_レ清淨穢土也。清淨土也。匱惡穢土也。善妙淨土也。有_ニ三惡趣穢土_一也。無_ニ三惡趣淨土_一也。更惡趣穢土也。不更惡趣淨土也。所_レ言_ニ淨土者_レ報土也。穢土化土也。選_レ捨_ニ化土穢土_一。扱_ニ撰報土_一也。然_レ光台所現_ニ十方_ト國土_ニ既云_ニ「_レ皆有光明_一。即知_ニ報土也。問曰_ニ「_レ彼_レ安樂正報_ニ弥陀_ヲ云_ニ「_レ高六十萬億那由他恒河沙由旬_一。依_レ報_ニ寶樹_ヲ但云_ニ「_レ八千由旬_一。何_レ正報高_レ廣_ニ依_レ報_ニ小程_ヲ耶。答曰_ニ「_レ正報_ニ國主也。對_ニ娑婆_ヲ機_ニ故_ニ以_レ穢土_ヲ衆生_ノ尋量_ニ程分_ニ定_ニ其量_一。依_レ報_ニ但被_ニ彼_レ聖衆_ニ故_ニ以_レ彼_レ主_ニ弥陀_ヲ尋量_ニ程分_ニ定_ニ樹分量_一也。故_ニ依_レ報_ニ高_レ正報_ニ短也。彼_レ釈迦暫時_ニ示現_ニ之報_ニ土有_ニ寶樹_一。高_レ無量_ニ恒河沙_ニ縱_ニ廣_ニ正等_一種々_ニ妙寶_ヲ以_レ為_レ「_レ華葉果實_一。又云_ニ「_レ一樹下_ニ各有_ニ七_ト寶師子之座_一。天_レ迦衣_ヲ以_レ為_レ「_レ敷具_一。其_レ座上_ニ出_ニ菩提_ヲ輦_ヲ玉_一名_ニ無_レ邊_ニ寶_ニ嚴飾_ニ七_ト寶所成_一。高_レ阿僧祇_ニ恒河沙等_ニ三千大千_ニ微塵_一等_ニ世界_ニ縱_ニ廣_ニ正等_一云云。豈_ニ無_レ數_ニ世界_ニ海_ニ之_レ安樂_ニ實報_ニ淨土_一乎。問曰_ニ「_レ佛及_レ利_レ土_ニ無_レ漏_ニ實報_一者何_レ彼_レ四十八願之中_ニ說_ニ設_ニ我得_レ佛_ニ國中_ニ聲聞_ニ有_レ能_ニ計量_一。下_ニ至_ニ三千大千_ニ世界_ニ聲聞_ニ緣覺_ニ於_ニ百千劫_ニ悉_ニ共_ニ計_ニ校_一知其_レ數_上者不_レ取_ニ正覺_一。既_レ彼_レ國中_ニ現有_ニ聲聞_一。又曰_ニ「_レ彼_レ佛_ニ初_レ會_ニ聲聞_ニ衆_ニ數_ニ不_レ可_ニ稱_ニ計_一云云。觀經中_ニ皆_ニ小乘_ニ根性_一者往_ニ生_一。加_レ之_レ阿_レ彌_レ陀_レ經_ニ說_ニ「_レ彼_レ佛_ニ有_ニ無_レ量_ニ無_レ邊_ニ聲聞_ニ弟子_一。然_レ聲聞_者其_レ根_ニ小也。純_ニ化土_ニ之_レ弟子_一也。云_レ何_レ以_レ「_レ弥陀_一為_レ「_レ報土_一耶。答曰_ニ「_レ既云_ニ「_レ安養_ニ云_ニ「_レ安樂_ニ云_ニ「_レ無_レ為_レ「_レ泥洹_一。悉_ニ是_レ報土_ニ之名也。然_レ本願中_ニ云_レ有_ニ聲聞_一。及_レ同_レ經

云二初会声聞一。小經說レ有レ二声聞弟子者然声聞有レ大有レ小。大乘声聞者初二三地信忍之菩薩也。大乘緣覺者四五六地順忍之菩薩也。乃至声聞教得道者仏果云二声聞仏一也。就レ中觀經中輩者非レ説レ彼国有レ二小果者。於レ此行二小乘者廻心而往生者也。然彼弥陀及彼国土現是實報矣。問曰四十八願之中説設我得レ仏十方衆生至レ心信樂欲レ生二我國一乃至十念若不レ生者不レ取二正覺一。唯除二五逆誹謗正法一。如二本願中既除二重罪一。然至二觀經ノ下品下生ニ聽ニ五逆之人往生一。有何義乎。答曰本願就レ説レ除有二義。一曰除是制教門也。實不レ除也。以レ何得レ知。四十八願願皆有二序中一結。謂一願初設我得仏其一願序也。次文言者是正中也。不取正覺者結也。余四十七願既不取正覺之結畢之。後不レ置二別之言之。知為レ止二重罪一制戒門也。故不レ在二不取正覺之内一也。二云除是釈迦制戒之方便門也。非二弥陀本願一也。本願結二不取正覺一之後更無二余言一也。觀經云レ撰者其義實也焉。問曰彼安樂阿弥陀實報者何故四十八願中設我得レ仏他方仏一土諸菩薩衆來二生我國一究竟必至二一生補処一者必至二涅槃一。入二涅槃一者是化仏之相也。何報仏乎。答曰於二補処一有二報化之別一。化仏補処者入滅之後補処也。報仏補処者即以二印可一名為二補処一者也。今大經所レ説補処者印可補処也。敢不レ可レ類二化仏補処一也。是即略釈二仏土義一畢。

第二定二往生行相一者行亦有二種一。一者諸行。』二者念仏。一諸行者廻二大小戒律誦誦大乘等諸行一往二生彼國一也。二念仏者於二彼弥陀名号一心念口称。就レ此二行一諸行廻向生念仏雖レ不レ廻向二生一。何以故。諸行通行也。念仏別行也。所レ言通者或為二人道因一或為二天道因一或為二声聞因一或為二緣覺因一或為二菩薩因一或為二十方淨土隔時菩提因一或為二諸仏直成菩提因一。譬如下他之財物未二与得レ之時更他物也。既与得レ之時自用上故未二廻向一之時更不レ成二往生西方因一也。念仏不レ然。更不下敢為二余事一之因上。但為二西方之因一故不レ用二別廻向一也。

二行得失可レ知。

第三明ニ念仏現益ノ者念仏行者ノ龍神八部釈梵四天恒守護除ニ疾病ニ及延ニ壽命ニ。設取ニ於ニ三家ノ堂ニ鮮レ仁不レ鮮レ仁。必在ニ縲繼之中ニ。此人至心念仏之時觀音勢至及無量聖衆乃至菓師八修之菩薩來護念轉ニ定業ニ與長命樂ニ。行ノ者之礼能■(角十)而弗ニ畔命ニ。誓常念ニ名号ニ撰取光明照ニ行者身ニ比ニ蒼生之求レ母。因レ照罪滅ニ。如下遇ニ億千之日ニ之雪上ニ(此即流水断也。未レ能断ニ胎卵湿化四流ニ已上)。不レ滅ニ未造惡ニ也) 其念佛功ナレハ未終ニ得益ニ也矣。

第四述ニ臨終瑞相ニ者仏智能知ニ行者心念ニ自出ニ報国ニ来ニ到穢界ニ親ニ近行者ニ一尋之間 高声告言 汝能自知。大悲ヲ我來迎接。汝身善器也。汝瑚璉也(瑚璉者黍稷器也。夏曰ニ瑚璉ニ。殷周曰ニ簠簋ニ。本是崇廟器也。今亦往生ノ器也) 勿レ生ニ懈怠ニ。急修ニ念仏ニ。成ニ必令ニ汝 来ニ本願之桴筏ニ必応レ渡ニ大苦海ニ也。

曠劫難レ得得ニ人身ニ 多生難レ遇遇ニ本願ニ
頌曰 称名一乘多善根 一念十念仏來迎

第五釈ニ胎化二生ニ者疑ニ惑ニ仏智ヲ而求ニ往生ニ者 不レ信ニ本願ニ多雜ニ諸善ニ。雖レ生ニ彼国ニ処ニ彼華胎ニ。比ニ之宮殿ニ。或名ニ迦土ニ。随ニ其疑惑輕重多少ニ華開時分皆亦不定。至誠信樂 欲レ生ニ彼国ニ口ニ称名ノ号ニ相ニ応本願ニ。極善即是無ニ中有ニ故即是得ニ無生ニ。悉是化生。值ニ偶報仏ニ故即成ニ正覺ニ。遊ニ戲ニ仏所ニ在ニ無量仏聽ニ聞説法ニ増ニ進覺道ニ。于レ時弥陀告ニ新往ニ言汝今知否。汝今生ニ報国ニ是娑婆本師恩徳也。

頌曰 師長恩徳甚深厚 碎レ身破レ骨匣レ心謝
巡ニ歷十方ニ隔ニ塵劫ニ 云何 輒報ニ一字恩ニ

第六ニ顯ス後益分齋ヲ者或聽シテ持シテ大聖尊教ヲ悟ル「一」實無ニ之レ法性ヲ。或見シテ聞シテ依報恒說ヲ弁シ二種成仏之道理ヲ或談ス下界之苦事ヲ。然彼八大地獄之冬夏者專因リ于瞋恚之過錯ニ三十八天之春秋者必依ル于痴愛之無救ニ。然超越強緣之名号者為シテ天真ト而滅ニ於重罪ヲ。拔苦与樂之來迎者為シテ法爾ト而起ニ於大喜ヲ。觀音頌曰

今出テ旧住娑婆鄉ヲ
直到ニ安樂真報土ニ

見仏聞法悟リ真如ヲ
如レ願利ニ益有緣類ニ

或到テ他方諸仏刹ニ
直問ニ真如性相義ヲ

還シ來本国極樂界ニ
一 一 國界自遊歴ス

眼見ニ実相微妙色ヲ
耳聞ニ真如無量音ヲ

鼻聞ニ毘盧栴檀香ヲ
舌嘗ニ普現甘露味ヲ

眼見ニ無漏希有華ヲ
思ニ昔驚嶺春華色ヲ

示思ニ金谷華月天ヲ
次想ニ庾嶺廬山春ヲ

或見ニ大智光明照ト
統念ニ娑婆秋名月ヲ

或聞テ解脫微妙香ヲ
亦念ニ閻浮沈水芳ヲ

行地即成ニ脾肺臟ト
愛水亦成ニ腎水臟ト

悲火轉成ニ赤心臟ト
智風變成ニ東肝臟ト

若能念ク仏ヲ往生スル者ハ
五臟ヲ轉成ニ仏ト五智ト

五智即是諸仏源

五臟即是如來智

左青龍河向レ南行

常流ニ性空法定ノ水

右白虎道亘ニ南北

恒通ニ自在覺慧ノ車

前朱雀池湛ニ宝水

即開ニ無価ノ宝蓮華

後玄武岡飾ニ心地

統念ニ東岸西岸苔

大慈大悲大宝殿

多億万間成ニ莊嚴

帳垂ニ柔和忍辱ノ衣

座並ニ畢竟空慧ノ台

仏出ニ正覺大音声

告ニ諸仏子ノ慇懃言

汝等久住ニ娑婆國

即依ニ無明邪見多

或時不レ順ニ師長教

或時不孝ニ于六親

恒造ニ五逆ノ謗ニ三寶

亦無ニ修善ニ不念仏

今日幸至ニ真報土

隨レ念見レ仏及聞レ法

唯是不可思議莊嚴刹土能化・清淨・無垢・威」功德・師子・月光・毘盧遮那藏・瑠璃幢・圍繞・円通光明・

功德威聚・日月智光王如來之恩德也。

于レ時新往諸仏子

悲喜交流シテ昔罪

或得ニ弥陀真心骨

次念ニ娑婆慈父種

或飲ニ如來大悲乳

即想ニ閻浮悲母精

或交一切聖人天

或聽宮商角徵羽

即範仙鳳之羽翼

或聽宜王龍笛曲

琴瑟琵琶奏樂

蒼皇造瑟炎造琴

奏女破瑟為兩片

見色聞音悟道法

東青淨門歡喜閣

西白毫門菩提樓

中央陰門和合閣

各堅降旗被法鎧

極樂界中多宝国

一一国界有一城

大小衆水入大海

至心念仏往生者

如是一切事已竟

念昔兄弟姊妹類

鳳笙八音中匏音

是伝金鸞之音轉

亦聞籟籥箏篋等

隨時而聽即発悟

媯氏又造琵琶姿

有二十三絃為姉分

不忍性昔閻浮事

南朱雀門光明樓

北流水門涅槃樓

自国他方諸聖衆

列琴瑟柱嘯夜月

其国無量塵沙数

一一城中莊嚴然

自然而転成塩水

法爾即転成薩埵

還来苦海成知識

先度^シ有^ル緣^ノ諸^ノ恩^ヲ所^レ 次^ニ益^ニ法^ノ界^ノ衆^ノ雜^ノ類^ヲ』

麒麟聖財立宗論卷四終

今此論者淨家之命脈華文深理不^レ可^テ得^テ而稱^ニ矣。爾有^レ人不^レ窮^ニ素意^ニ妄^ニ曰^ニ偽論^ト世不^レ賞。故吾師袋中作^ニ私釈^ニ粗註^ニ明^ニ之。雖^レ然略釈而新字不^レ能^ニ通達^ニ。至若近來所^ニ版行^ニ本末共甚衍奧^ニ某悲^ニ此書^ノ廢^ニ或時聚^ニ初機^ノ弟子^ニ暫講^レ之。隨^ニ己分^ニ改^テ以重鑿^レ梓志^ニ在^ニ弘通^ニ耳。』

于時

延宝四（丙辰）年冬吹^ニ寒筆冰硯^ニ校焉

華洛三條橋本法輪寺東輝敬白

右翻刻損質者薦亮範大和尚觀織大和尚教道老和尚知照庵主惠寂大姉祖先冥福

維時明治十八年酉八月

尾州知多郡常滑宝寿院室灑覺道和南』

明治十八年八月十九日出版御届

同 年九月 刻成発允

翻刻出版人 愛知県平民 三浦兼助

名古屋区門前町廿番邸